

F 23 家政系の大学・短大に対する女子大生の意識

愛知女短大 ○安藤文字

名古屋女大家政 石原久代

名古屋女子文化短大 白石孝子

目的 我々は前年度の家政学会において「家政系の大学・短大に対する高校生の意識」について報告した。続く第2報として、今回は学科の名称変更やカリキュラムの再編成が多くの家政系の大学・短大で実施され始めてから数年が経過した現在、これらの状況を在学中の学生達が、どのようにとらえているのかを把握することを目的として調査を実施した。

方法 調査時期：1991年10月

調査方法：集合調査法

調査対象：中部地区の家政系大学及び短大の1・2年生 計741名

結果 1. 新名称の一例として生活学科をあげ、家政学科の名称とのイメージを比較すると、家政学科に対するイメージは生活学科よりあたたかいと評価され、逆に生活学科では明るい、新しい、都会的な、積極的なと評価されている。

また、1年生と2年生とでは家政学科への評価の傾向は類似しているが、生活学科に対しては、ほぼ全項目において1年生の方が好意的な評価をしている。

2. 大学への期待として、専門知識及び技術の習得（約50%）、さらにそれを就職に生かせること（約30%）（複数回答）など専門性への期待が大きいことがわかる。

3. 女子大学であることに対しては、「共学の方がよい」（約35%）、「女子大学の方がよい」（約25%）となっている。共学を望む理由としては、より学生生活の活性化を求め、女子大学を望む理由としては、気が楽であることが多くあげられている。